



Shigeru Obayashi

大林 茂

Institute of Fluid Science, Tohoku University,
Head of the Aerospace Cluster

国内トップクラスの東北大学の風洞装置を 民間企業の環境・省エネR&D支援に開放します。

東北大学流体科学研究所は流体力学研究の世界的リーダーであり、所内には国内トップクラスの風洞が設置されています。これらの風洞で得られた実験データは、最先端の航空機やロケットの設計などに貢献してきましたが、このたびこれら風洞が、「先端研究施設共用促進事業」の実施機関に指定されました。共用促進事業の目的は、大学などが保有する先端研究施設を共用し、わが国の科学技術水準の高度化を図ることです。当研究所が保有する貴重な研究資産である先端的風洞研究施設を、大学の研究に使うだけではなく、広く民間企業の製品の開発や設計にご利用頂き、その有効利用を図りたいということあります。

人類の未来を考えた時、環境に負荷が掛からない、エネルギー消費の少ない技術と製品を開発し提供することが、科学技術と産業が直面する大きな課題となっています。製品の空力性能や耐風性を向上させることは、環境問題や省エネへの大きな貢献となります。そのため、空力性能や耐風性を実地に試験・評価できる風洞という設備を製品の開発と設計に活かして頂きたいと考えております。当研究所の共用リエゾンには、風洞実験のベテラン研究員が揃っており、教授陣によるアドバイスも提供できます。風洞実験は未経験という企業も歓迎致します。当研究所の風洞を用いた実験データを、環境適応型、省エネ型製品の製品の開発・設計にぜひお役立て下さい。

わたしたちは歩んできました。

History

▶ 昭和47年1月 高速力学研究所(現・流体科学研究所)内に低乱熱伝導風洞設立準備委員会(昭和49年7月に低乱熱伝導風洞設置委員会に名称変更)が結成され、同風洞の基本設計を開始。

▶ 昭和48年 小型低乱風洞を設計・設備し、実験研究を開始。

▶ 昭和49年 低乱熱伝導風洞実験室建物RC2、1571m²が完成。

▶ 昭和49年 低乱熱伝導風洞装置が完成。

▶ 昭和54年 4月 前記風洞設備および低乱熱伝達風洞実験室建物を母体として、高速力学研究所附属気流計測研究施設が設置。

▶ 昭和54年 6月 東北大学高速力学研究所附属気流計測研究施設運営委員会が結成。

▶ 昭和57年10月 前記風洞設備およびそれに関連する諸計測装置を学内共同利用。

▶ 昭和59年12月 附属気流計測研究施設報告および附属気流計測研究施設資料の発行を開始。

▶ 昭和63年 4月 気流計測研究施設および衝撃波風洞を併せ、衝動波工学研究センターに改組転換。

▶ 平成元年 6月 東北大学流体科学研究所低乱風洞運営委員会が結成され、低乱風洞実験施設として運営が開始。

▶ 平成21年10月 先端研究施設共用促進事業・補助事業実施機関に指定

風洞運営委員会

早瀬敏幸 所長／草刈芳実 事務長／太田福雄 技術室長／小林秀昭 教授／大林茂 教授・委員長／鄭信圭 准教授／奥泉寛之 技術職員・技術室／澤田秀夫 客員教授・共用リエゾン室
姜東赫 研究員・共用リエゾン室／高橋邦弘 特任教授・産学連携室／福西祐 教授・工学研究科／浅井圭介 教授・工学研究科／川添博光 教授・鳥取大学／丹野英幸 研究員・JAXA(角田)

事業参加者リスト

大林茂／太田福雄／澤田秀夫／姜東赫／高橋邦弘／福西祐／浅井圭介／早瀬敏幸／草刈芳実／小林秀昭／鄭信圭／奥泉寛之

事業協力者リスト

川添博光 鳥取大学／丹野英幸 JAXA(角田)

学生ユーザー会

山下博 ポストク・会長／萩原(M2)／西尾(D2)／依田(D2)

東北大学流体科学研究所

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区平2-1-1

Institute of Fluid Science, Tohoku University
2-1-1 Katahira Aoba-ku Sendai, 980-8577
TEL:022-217-5302 / FAX:022-217-5311
<http://www.ifs.tohoku.ac.jp>

東北大学片平地区



東北大学流体科学研究所低乱風洞実験施設
<http://tech.ifs.tohoku.ac.jp/windtunnel/>

TEL:022-217-5280



仙台空港より仙台駅まで電車25分 仙台駅より徒歩20分
25 Mins. by train from Sendai airport to Sendai station.
20 Mins. on foot from Sendai station to IFS.